

令和8年度 第1回大町市保育所等のあり方検討委員会 会議録

○開催日時 令和8年6月1日（月）午後2時から

○開催場所 大町市役所 東中会議室

出席委員 岑村 広美（大町市私立幼稚園連盟）、鈴木 康貴（大町市校長会）
諏訪 光昭（大町市社会福祉協議会）、松山 明正（大町市民生児童委員協議会）
松原 克彦（大町保健福祉事務所）、會田 義昭（松本保健福祉事務所）
内川 亨（大町市連合自治会）、宮沢 卓（大町市幼稚園父母の会）、
遠藤 朋子（大町市保育園保護者会連合会）

事務局 民生部長：久保田肇 子育て支援課長：西沢永雄
児童係長：降旗広美、児童係：高橋勇太、新井貫太、中條きよみ
くるみ保育園園長：松井弥生

1 開会（西沢子育て支援課長）

2 委嘱書交付（机上配布）

任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

3 あいさつ

【久保田民生部長】本日はお忙しい中、会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。昨年、大町市保育所等あり方検討委員会では、大町市で少子化が進んでいること、また保育士の不足が解消されないという中で、今後の大町市の保育はどうあるべきかについてご議論いただいて参りました。そして、保育の質を向上させるために、公立保育所を再編するという方針を決定いただいております。担当課ではその決定を受けて、本年1月から2月にかけて、保護者説明会、また6地区で地元の皆様への説明会を実施して参りました。本日はその説明会で出された様々なご意見を踏まえまして、再編は決定いただいているものでありますが、そこをさらに踏み込んだ具体的な方向性について、今後ご検討いただく予定であります。なお、公立保育所の再編につきましては、再編ありきということではなく、公立保育所と私立の認定こども園を含めまして、大町市の保育の質の向上の1つの施策として再編するものであります。保育の質の向上には、他の様々な施策も必要でありますことから、その点につきましても、この検討会でご議論いただきたいと思います。本日の会議では、委員の皆様におかれましては、様々な視点からご意見を頂戴いただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

4 自己紹介

(委員及び事務局の自己紹介)

5 大町市保育所等のあり方検討委員会について

(大町市保育所等のあり方検討委員会設置要綱を説明)

6 会長、副会長選出

大町市保育所等のあり方検討委員会設置要綱第4条に基づき、会長に大町市社会福祉協議会の代表者 諏訪 光昭 氏、副会長に大町市民生児童委員協議会の代表者 松山 明正 氏を選任。

【諏訪会長】私は昨年3回の委員会に出席させていただいて、皆様のご意見を伺いながら進めさせていただいたところでございます。本当に微力ではございますが、前会長のもとで議論を重ねられてきて、保育所のあり方について、1つの方向性と申しますか、大きく踏み出したというふうに思っております。いよいよ、それをですね、さらに、実りある形として、委員会の趣旨に沿った形での方向性、そしてまた、大町市の将来を担う園児たちの皆さんの、着実な歩みが進められる環境づくりを目指していかなければいけないなどというふうに思っておりますので、素晴らしい委員の皆さんに恵まれましたので、どうぞ皆さんのお力を、そしてまた事務局スタッフの皆さんのお力をお借りしながら、進めて参りたいと思います。何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

【松山副会長】新任委員ですので、昨年度までの経過等を学びながら、少しでも皆様のお役に立てるように、大町市の子どもたちのために働けるように頑張りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

7 会議事項

(1) これまでの検討状況について (市民説明会資料)

【諏訪会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】(市民説明会資料に基づき説明)

【諏訪会長】説明が終わりました。ご意見・質問等がありましたらお願いしたいと思います。(意見、質問等なし)

(2) 保護者及び市民の意見とその対策

【諏訪会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料1に基づき説明)

【諏訪会長】説明が終わりました。ご意見・質問等がありましたらお願いしたいと思います。

【A委員】小学校への接続に関する対策として、具体的なアイデアであったり、参考になっている市町村はありますか。

【事務局】内々の話ですが、教育委員会と少し話をしているのは、先生同士の研修とか話し合いの場とか、保育園の年長先生と小学校の低学年の先生との話し合いの場とか情報共有す

る場がうまくいっていないというようなところがあり、そういう場を設けることであるとか、資料にも記載してありますが小学校と保育園の子ども同士の交流みたいなところ、例えば、八坂では小学校の音楽会にたけのこ保育園のお子さんが観に行ったりというようなこともやっていますが、なかなか他の学校と他の保育園ではそのような交流ができていないという状況ではあります。近隣では池田町が幼保小の交流というところで、0歳から15歳までの連携というかどうかというふうに育てていけばいいかというようなところを検討されて作られてるんですけども、池田町だけではなく他の市町村も、全国的にもやっているところがあって、やはり教育委員会と認定こども園も含めて、子育て支援課とどういうふうに連携しながら幼保小の接続の対策を考えていくかというのがそこまで具体的ではないですが、何か連携の会議を立ち上げてやっていかないと、不登校やお子さんが小学校に上がっても適応できなくて教室の中にずっといられないとかということも起こっているということを教育長からもお聞きしているので、それは保育園側の方にももしかしたら問題があるかもしれないのでそこをしっかりと共有して、何か課題解決に向けた仕組みを作っていきたいなというふうに考えています。

【A委員】意見として、池田町の動きとかは私も注目しています。やはり大町市となると、美麻村と八坂村と大町という印象があって、何か子育てに関することで、幼稚園、保育園、小学校、中学校という繋がりが、今八坂が本当に小学校、中学校の雰囲気がすごく良くて、上の子がずっと通ってきたのもあるんですけど、すごくよく変わってきてるっていう、保護者として見てるところがあって、そういう意味では何かやっぱり村の感覚で、自分の地域にやはり保育所があり、そこから小中があるっていうことをそれぞれの地域の特色で何か考えられるといいなあっていうのは、やはり今回八坂公民館の会議でも地域の方の熱意もすごい感じて、そういった意味で私もちょっとこういった立場にあるので、八坂を1つ雛形として、もうちょっと長い目で、日本の子供たちが育つ環境、そして、何か魅力をもう少し見つめ直していけたらいいんじゃないかなって思います。

【事務局】八坂地域とは違って、例えばはなのき保育園だといろんな地区から児童が集まっているので、どういうことが今後できていくのかということ、たけのこ保育園から八坂小中は本当に良い繋がりになってると思うので、そういう固まった地域ではなかなか他の園は難しいんですけど、どういうふうな仕掛けをしてやっていくかっていうところをちょっと考えなきゃいけないかなというふうには、八坂とは違ってこちらで何か考えて取り組みをしないと多分進まないかなというふうには思っています。

【B委員】幼保小の連携の部分で、美麻の話ですが、もちろん美麻に保育園があって欲しいという思いはありますが、昨年までの検討委員会の話の中でこういう状況になっているということと、施設の維持とか保育士数とか、財政面から考えたときに、今こういう話を進めていく中で、美麻の方でも、今年度の入学式にでも地元のお子さんがやはり美麻小中学校に就学しなかったという事実があります。そこで美麻では何をするかということなんですけども、例えば、今度の運動会のときに、来年入ってきそうなお子さんのところには来てくださいと、みあさ保育園がないから何かをしてもらうということではできないんですが、来年度入ってくる美麻地域のお子さんは来てくださいということで案内を出しています。それから、美麻の場合は、地域と合同で運動会や音楽会、文化祭をやっているんで、地域の人として見に来てください、遊びに来てくださいということで案内しております。それ

から7月の学校公開でもいろんな宣伝をして地元の方を中心に就学してきてくださいねというような宣伝を頑張っております。なので幼保小連携というところでそれが大事なかなと。実際に就学してくるお子さんとは、来入児の体験入学ということで小学校ではこういうことをやってるよっていう、1時間ぐらい子供たちと交流しながらやっています。

それと資料7ページの部分の「…地域における子どもの活動を充実させるため…」というところで、ここも学校側は大事になってくることかなと思っていて、例えば自治会として地域に入ってもらって、その下には子ども育成会があって、夏休みとかいろんなところで子ども育成会で小学生や中学生と一緒に活動しながら、地元の子だよねと、親も子どももその地元と繋がりが合っていくというのが大事になってくるかなあというふうに思ってるんですけども、なかなか今若い方たちは自治会に入らなかったり、自分から自治会を切ってしまうということがあるんだけど、そこが大事なところかなと思うので、地域と子どもたちが繋がり、保護者が繋がるっていうようなところを、また投げかけていただければありがたいなと思っております。

【事務局】育成会をどう育てていくかっていうところが今後の課題になってくるかなと思います。育成会には小学校に上がると何となく入みたいな感じになっていますけど、保育園ともう少し小さい頃から保護者の方が関わってもらえる仕組みづくりであるとかを考えていく必要があるのかなというふうに思っているところです。

【C委員】幼保小接続については、国としても本腰をいれてやらなきゃいけないということで、県の方でもどうすればいいかということで動き出しているところであります。

幼保小接続ということに関して言えば、事務局から説明があったように、小学校の方にもっと保育園や幼稚園も含めて、保育ってどういうことをしてるのかなっていうことを、小学校の先生方にわかってもらうということがまず大事だと思います。それは教育委員会と連携をしながら進めていくことだと思うんですけども。例えば、筑北村は夏休みの1日を使って、小学校、中学校の先生方が保育園に行って、1日保育士体験をしているんです。たぶん小中学校の先生方の保育園とか幼稚園に対する意識は、託児、子どもを預かってくれればいいという意識だと思うんですね。でもそうじゃないですよ。今の保育園は。子どもの主体性を大事にして、子どもの活動を作っていく、そういう保育を受けてきた子どもたちが小学校に上がってくるので、小学校は受け皿としてどういう教育をしなければいけないかというふうに、小学校の先生方が考えるということが、幼保小接続として第1。それから2つ目として定期的な情報共有ということが必要だと思うんですけど、今は小学校に上がる前と上がった後に一回ずつ情報共有の場もありますが、それはどうしても子どもの個々の状況共有が中心になるんですよ。そうではなくて、小学校の先生方はやはり保育園でどんなことをしてきたのかっていうことをね、例えば、ものづくりが好きな子どもたちが多いたか、スライムが好きだとか、鬼ごっこすることが好きだとか、そういう情報を共有することで小学校の教育課程に生かしていくという。先週の朝のニュースで横浜市の小中連携のことが流れてましたけど、横浜市の場合は地域ごとにやっぱり小学校の先生方が保育園に行ってみたりとか、子どもたちの保育環境をみたりとか、それから定期的に小学校の先生と保育園の先生方が情報共有して、どんな子たちが小学校に上がってきますよっていうことをやっている。だから、幼保小接続の要は、やはり小学校の先生方の意識をどう変えていくかということかと思うので、これは資料に書かれているように、再

編するしないにかかわらず、今もうやっていかないといけないことなので、教育委員会ともよく相談をしながら、教育委員会主導でやってもらう。

それと、美麻とか八坂とかの地域の良さを生かしていくのはすごく大事、大きなことだと思うんですけど、それはどういうふうにしていけばいいのかと。これから再編になればますますいろんな地域から子どもたちが集まってくるので、もちろんはなのき保育園とかくみ保育園とか存続する園はその地域との関わりというのは当然持てるようになると思うけど。でも、園がない美麻とか八坂の地域とどういうふうに関わっていくかというのは、かなり難しいことだと思います。今たぶん八坂だと、老人会の集まりだとか地域の集まりがあるごとに保育園の子どもたちが行って、交流するという良さがあるって、それでやっぱり地域の人たちも、自分たちの地域で子どもを育てていくんだという意識もあると思うんです。でも、八坂に園がなくなる、美麻に園がなくなるという、園がない地域はやっぱりそこはどういうふうにしていけばいいのか。社地区は小学校もなくなる、保育園もなくなるというところがやっぱり地域の人の意識としては寂しいっていうことはあると思うので、そこはどういうふうにするのがいいのか。もちろん定期的に出かけていくことはできると思いますよ。一番近い園が、八坂や美麻に出かけていく、そうすることで何か繋がりができていくとか、例えば八坂のどこかの畑を借りて畑づくりに行くとか、定期的に何かそうすることで八坂とか美麻のおじいちゃんおばあちゃんとか地域の人と関わりながら、おじいちゃん先生、おばあちゃん先生って言って、そこで子どもたちは触れ合いながらやっていくということがいいのか、ちょっと今思いつくのはそのことぐらいかな。あるいはその地域の集まりは全部は無理でも、八坂に一番近い園が出かけていくとか。残る園の地域だけを大事にするということにならないように、園のない地域を活性化するような方策もやっぱり考えていかないといけないと思いますね。

【事務局】 幼保小の連携のところは、教育委員会が主導でというふうには思っていて、教育長もおそらくそういう考えではいると思いますが、どういう立ち上げをしていくかというのは今教育委員会もかなり業務が忙しいという中で、相談中ではありますが、どういう組織でというところまではまだ進んでいないですが、そういう形で進んでいくかと思います。それと先ほどの地域との連携のところ、確かに再編される園、どんぐり保育園であるとか、たけのこ保育園は今のところ経過措置で残すとなっておりますけれども、しらかば保育園であるとかは、社地区や平地区とも地域の方がいろんなことを手伝ってくださったりして、どんぐり保育園では、田んぼで田植えの体験させてもらうとか、畑を貸していただいたりとか、芋ほりさせてもらったりとかもやっていて、何かそういう活動が本当にそこでパタッとなくなってしまうと、子どもの体験ももちろんですが、今まで善意で提供してくださっていた地域の皆さんとの繋がりもなくなってしまうというところは、なくしたくないなっていう気持ちもありますので、そこをどういうふうに組み立てて、何とか継続できるのかというところを検討していかないといけないなというふうには思っています。

【C委員】 生坂や信州新町の園に通う方が近いというのが資料にあったかと思いますが、基本は大町市の園に通うというのが原則でしょうか。

【事務局】 基本は大町市内の園に通うことを原則としていますが、たけのこ保育園のように現状10人という状況で、定員45のところなので相当少ないんですけど、ただ、やっぱり基本は大町市内の園に通うことが原則かなというふう思うので、たけのこ保育園は経過

措置として残すということにしています。ただ、内部でも話をしたのですが、園児が5人以下とかになってきてしまうと、今は園長先生と保育士2人、調理員が1人と長時間先生が1人の5人で園を運営していますが、この職員数が限界だと思うんです。園を続けて運営するには。これ以上園児が少なくなると考えていけないかなっていうふうに思います。ただ市内まで連れてくるはやっぱ距離的に難しいので、検討はしていきますが難しいかなと思っています。

【C委員】保育士の子どもを預かることについてなんですけど、近隣の小さな町村では、保育士が勤めてる園で子どもを預かってます。当然自分の子供を自分のクラスで見ることはしないけれど、クラスを変えて、例えば保育士が2歳児の担任だとすると、自分の子どもが2歳に入っていると、保育士は4歳児とか5歳児を担当するというような感じでやるとか、栄養士も自分の子どもを同じ園に預けて給食をそこで作ってるとかっていうところはいっぱいあります。

だからそこら辺は大町市でも柔軟に考えていくと、保育士の確保はよりし易くなるのかなって思います。

【事務局】市内の認定こども園ではすでにやっていると聞いています。免許持ってるけど、自分の子どもを預けながら働けないというような方がいらっしゃるとすれば柔軟に取り入れていきたいなっていうふうには思います。

(3) あゆみ園のあり方について

【諏訪会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料2に基づき説明)

【諏訪会長】説明が終わりました。ご意見・質問等がありましたらお願いしたいと思います。(意見、質問等なし)

(4) 公立保育所の今後の方向性

【諏訪会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料3に基づき説明)

【諏訪会長】説明が終わりました。ご意見・質問等がありましたらお願いしたいと思います。

【C委員】一番難しいのが再編の時期だと思うんですが、はなのき保育園にしても、あすなろ保育園にしても、改修がどのくらいかかるのかと。とても難しいのは小学校のように空いている校舎を改修するのとは違って、子どもたちが在園しながら改修工事をするわけですよね。小学校と違って、保育園は長期休みがないんですよね。そういうふうに考えると、どういうふうに工事をするのか、お昼寝をするから大きな音は出せないし、子どもたちの安全を確保しながら、通園している中で当然その工事で部屋を空けないといけない、その代わりに園としても子どもたちの居場所を確保しなければいけない、だからこの令和11年4月という数字がどのように導き出されてきてるかわからないんですけれど、具体的に業者とどんな工事が必要で、どういうふうにすれば可能なのかということを詰めないで、再編の時期はとても決めるのが難しいなという気がするのですが、この時期というのはどんなところから導き出した数字ですか。

【事務局】一番大きい改修が必要なのがおそらくはなのき保育園で、はなのき保育園の2歳の

部屋とか1歳の部屋には床暖房がありません。そこを改修しないと0歳児をお預かりできなくて、0歳児の部屋は今1部屋あるんですけども、そこだけではたぶん足りないというところで、想定としては幼児の部屋が減るので、2歳はもう立っているんで、幼児の部屋の方にいずれ移っていただき、2歳の部屋に床暖房を設置するような工事が必要になり、それに合わせてトイレの改修も多少は必要になるかなと思いますが、もともと未満児で使っていた部屋のトイレなので、そこまで大きな改修は必要ないのかなとは思いますが、流しとか、多少必要かなと思いますけれども。大きい改修はたぶんその床暖房、床を剥がして、暖房を入れるという改修が必要なんですけど、その時に空いているところ、例えばどろり保育園とかにその工事の一部の時期だけ移ってもらうとか、もしくは幼児の部屋で空きが出てくれば2歳児を一旦そちら側に移してやるのかとか想定してますが、実際のところ、今本当に材料確保や価格、職人が確保できるかという問題もあって、そのあたりの確保がちゃんとできればこの時期でいける想定ですが、なかなか読めなくてですね。もし時期を明確にしないほうがよいということであれば、できるだけ速やかなとか情勢を見ながら早めにとかみたいな書き方になってしまうかなと。目標とするとか。

【C委員】増設する工事は必要ないんですか。

【事務局】部屋を増設するのは想定していません。もし仮にあったとしても職員が使用する会議室などをプレハブで設置するなどかと思います。

【C委員】未満児にとってトイレはとても大事なもので、どこに置くかという動線はよく園長先生と相談しながら、動きやすい動線を作らないととても大変になってしまうので。一番問題は職人と材料ということですね。

【事務局】多分、今年予算要求して、9、10と2年間あるので、何か建物をすっかり変えるとかでは多分ないので、そろえば、2年間のうちに行けるかなあとかいうふうには思っているんですけど。

ただ、本当に小学校とかそうだと思うんですけど、予定してた予算よりも材料が1.5倍とかになって、予算内に入らなくなって、入札が落ちない、今、公共工事みんなそうだと思うんですけど、結局もう1回やり直しになる。予算とるところからやり直してなると、その分先に延びてしまって、でき上がりがどんどん遅れてしまうっていうことがあって、鈴木先生はご存じだと思うんですけど、小学校、南部小あたりは、トイレの改修工事が間に合わないまま再編し、開校したわけです。

保育園だとそれは厳しくて、正直、改修工事が間に合わないままスタートするのは無理なので、目標は令和11年ですけど、もしそれで間に合わないとなると遅らせるしかやりようがないかなあというふうには思っています。

【C委員】そこら辺は皆さんご理解いただけたと思いますけど。曖昧なままっていうよりは、ある程度時期は示したほうがいいと思う。それが、この状況でやっぱり伸びる可能性があるってことはお伝えするしかない。

【事務局】ただし書きでいろんな事情によって工期が延びる場合は、児童に最適な環境を構築した上で、再編時期を再度決定するみたいな書き方がいいですかね。

【D委員】それによって、全体のスケジュール感じゃなくて想定範囲内が遅れば遅れるほど影響が出てくるところも出てくると思うんですよね。先ほどおっしゃった未満児の人数が増えたりとか、そういうところへの影響は、ある程度考えないと、のみこめな

くなっちゃうっていうことも考えられるので、時期的なことも含めて、またいろいろな想定を考えながら進めていったほうがいいかなと今お話を聞いていて思いました。

【事務局】資料にも記載していますが、どんぐり保育園ですが、あゆみ園として利用する場合は3室ある幼児の部屋を使っていただいて、あと遊戯室を使っていただいて、現在未満児の部屋と一時預かりをしている部屋がありますが、そこをとりあえず残しておき、3歳未満児のニーズも含めて、柔軟に活用できるような想定で考えています。

(5) 意見交換

【事務局】今までの説明で公立保育所の再編に向けた方向性は示されたものと思っています。

公立保育所の再編に関しましては、市の諮問機関で「大町市子ども・子育て審議会」に諮問を行っております。前回までの検討内容はすべて説明済みということで、本日検討いただいた内容を報告させていただく予定です。子ども・子育て審議会に委員皆さんで委員を兼ねている方もいらっしゃると思いますけれども、もし審議会の方にこういうことを伝えておいてほしいということがありましたらご意見をいただければと思います。

【諏訪会長】事務局から説明がありましたとおり、子ども・子育て審議会に意見をお伝えするということですが、継続された委員の皆さんはお分かりかと思いますが、初めての委員の皆さんが意見を言われても難しいかと思いますが、気持ちというか意見があればお伺いしたいと思います。

【B委員】私も住んでいる美麻から言うと、美麻もなくなっていくという形なので、3歳未満児の子たちの受け入れっていうのは、大事になってくるのかなと思います。移住の話も出てきました。移住によって、美麻とか八坂の特認校制度を使って、特色ある教育に行きたいなという話も出ています。小さな小中学校なのでそういうところにも他県から人が来るってなると、こういう小さなお子さん達を受け入れられる保育所があるかどうかというのもまた大事になってくるのかなと思うので、再編の中で涙をのむ保育園もあることを重々考えていただいて、さらに良い保育所のあり方というふうになっていくようにお願いします。

【E委員】私たちは私立の認定こども園なんですが、もとは幼稚園で、幼稚園が少子化によって運営も厳しくなり、認定こども園制度ができたときに3園あった幼稚園が全て認定こども園になりました。私立ですので、運営もしますし、人事も考えますし、少子化の中で子どもを次の年にどうやって集めればいいのか、うちの園をどうやって選んでもらえるか、そういうことを考えて、加えて通常の幼稚園の業務、朝や夕方の保育園の業務、その運営をやっていかなければなりません。

認定こども園になってから10年立ちましたが、その間ずっと少子化の流れの中において、今市が直面している問題というのはすごくよく分かります。大事なお子さんをお預かりしているところ再編をしなければいけないというところに立たされている、したくないけど再編しなくてはならないというその気持ちがすごくよく分かります。

お話し伺っていて八坂などは保育園と小学校が繋がっている、地域の中で保育園が大事にされているというのは、ものすごく羨ましいなと思います。幼稚園というところは、保育園もそうだと思いますが、学校と違って学区が決まっていてその地域の子どもは、この保育園に行くというわけではないです。やっぱりお母さんたちの仕事が入り込んでいる

と思います。お母さんたちの仕事、子どもを園に送って仕事に行く、このルートまで考えて選んでいらっしゃる、地域に何人いるから必ずしも地域の保育園に行くかといったらそうでもないんですよね。うちの幼稚園もこの資料には児童数が29人となっていますけど、他市町村から来てくださっている。それは私立ですので、建学の精神をそれぞれ3園が持っていますので、そこに良さを感じて選んでくださって、以前は池田町から、今は松川村から来てくださったり、今年は小川村からも来ていただいています。そして大町市のお子さんもいます。ここに掲載されている29人は、大町市のお子さんだけになりますが、そういう流れの中で、何が大事かというところとやっぱり子どものことですよね、子どもに良い教育、良い保育をしていく。親御さんの支援っていうのも大事だと思いますが、子育て支援というのは、今までは親御さん支援だったと思いますが、もちろん親御さん支援もしていかなければいけないと思いますけど、大事なのは子どもたち、子どもたちが園でどう育っているか、そこをやっぱり第一に考えていかないといけないなと思いますので、そういう視点も加えながらやっていくのが大事なかなと思います。もう待たないところまで大町市は来ていると言うふうに感じています。地域で育つ地域との交わりというのも大事にしていきたいけれど、その辺は今後例えば土日を利用するとか、別の時間を作っていただくなど考えていただくのがいいのかなというふうに思います。

【F委員】今日説明の中でもありましたが、保護者の方、市民の方への説明会ということで、保護者の方57名、市民の方37名が参加されて、ご意見を出されて、それを取りまとめたいただいたという形でご説明いただいたんですけども、再編とか今後のビジョンですかね、方向性を示していくときは、広く市民の方のご理解というのは必要だと思いますので、そういった面のフィードバックですよ、出たご意見に対して示していただいたペーパーもあるんですが、こういったことを市民の方にも広報というか、何かされていますかね。

【事務局】そうですね。市民説明会が終わった後に、皆さんにお配りした人数と意見と回答を記載したものについては、既にホームページに載っております。この後方向性が出て、議会に報告するタイミング、恐らく9月の全員協議会になろうかと思いますが、その後もう一度保護者と市民説明会をやる予定で考えております。

【F委員】そうですか。そういった形で丁寧にやっていただくのがよろしいのかなと思います。

【C委員】昨年度どんぐり保育園に訪問した際に、外で子どもたちが藍の草を育てて藍染めをやるって言って、藍の葉を摘んでいたんですよ。そこにトラクターに乗ったおじさんが来て、通りかかったとき、子どもたちが「田植えのおじさんだ。おじさーん。」と言って手を振って、子どもたちの方から「田植えのおじさんだ、また田んぼのこと教えてね。」って言って、そういう声が出たりとか、以前、くるみ保育園に訪問した時に、やまほいくをやっている地域を散歩して、水路を子どもたちが渡っていく、そういった中で子どもたちのバランス感覚が鍛えられていく、本当に地域との繋がりがっていうのが、大町の園はどれも大事にされているなとすごく感じるんですよ。今回再編ということで動いていくんですけど、地域との繋がりを大事にする保育をしていくということは、再編になっても続けてもらいたいな、大事にしてもらいたいなと思います。八坂とか美麻とか保育園がなくなるところは、どういうふうに地域を盛り上げていくかということ、園だけの問題ではなく

て、今後いろいろなところと連携取りながら考えていっていただければと思いますし、園として何か出来るかというのは、それはまた考えていっていただければと思います。

【G委員】いろいろご説明ありがとうございました。工事の関係ですが、大規模な改修工事ではないとはお聞きしましたが、子どもの動きというのは分からないと思うので、現場監督、職員も含めて、子どもをしっかりと安全管理して怪我のないようにお願いしたいと思います。

あと社なんですけれど、育成会を通じて今後も同じように行事を進めていきたいと思っていますので、またよろしくお願いします。

【A委員】ここにきていろいろな課題が見えて、ご苦労も多いんじゃないかなと感じながらお聞きしました。一つ検討されていることかもしれませんが、自分の身近な八坂も含めていろいろな地域で、保育所のことを考えると地域のことという意識が広がる中で、地域ごとの特色というものを関わっている方たちが感じていると考えると、このような会議の場はある程度選ばれた人間が参加しているのですが、例えば八坂だったら八坂地域づくり協議会みたいな横の繋がりでの会議で、どうこれからの地域の保育を考えるかという、そういう形のミーティングとか、山村留学の存在も特色があって、美麻と八坂があるって考えると、もうちょっと本当は全国からニーズがあるっていうことも含めて、もう一度地域のことを考えられるような横の繋がりがないのかなと思いました。もしあったらいいなという意見として申し上げます。

【H委員】幼稚園の父母の会という立場で出席させていただいたんですけれども、今回は保育園の再編っていう形の会議ですが、私の子どもを通わせてる幼稚園の方ですね、大町幼稚園なんですけど、追加資料を見るとやっぱり学年によって、多い学年、少ない学年あるんですけど、4歳児のクラスとか、うちの子どもの学年の下は少ない状態で、発表会の劇もできるのかなみたいな不安の声も聞くところではあります。

だから保育園に通ってる子に対しても、例えば幼稚園のよさがそれぞれあると思うんですけど、PRとか、保育園と幼稚園の人たちが連携して、幼稚園の特色とか伝えて、例えば年少からでも、こういう幼稚園の特色があるからそっちの方に移ることもできるよみたいな、保護者がいろいろ選択肢を持っていけるようなことを、保育園と幼稚園と連携してやっていってもらえればいいなと思いました。

【I委員】初めて参加させていただきまして、だいぶ意見集約が進んで、まとまってきているなというふうに思いました。ここまでのいろいろ紆余曲折があってまとめられて意見かなとは思いますが、これから後、詰める部分を、方向性を大事にしながらも、先ほどから出ているような、個の意見や個々の実情に合わせた、再編になっていける、命を吹き込んでいくような、そういう再編になっていただければありがたいなというふうに思います。

それにつけても、少しずつ理解を深めながら、お手伝いをしていきたいと思います。ありがとうございました。

【D委員】私も前々回の委員会で、ちょっとお話しさせていただいたんですが、遅れをとってはいけないなという感じが一番していております。というのは、今まで大町市の場合、ご承知のとおり義務教育の方が大きくダイナミックに再編をいたしました。再編してからの違いなんですけど、私の住んでいる町の近くでいうと、2つに再編されたことによって、

お子さんの横軸の動きだけでなく、縦軸の動きが出て、例えば仁科町のお子さんが北部小まで通うわけですね、そういう子どもさんが非常に増えて、町の中を歩く子どもさんがいる。これはやっぱり再編によって、人の流れっていうのは大きく変わるんだなというのを感じました。保育園とは様子は当てはまりませんが、いずれにいたしましてもここで決断をしていかなければならない、その大事な内容について本委員会でご検討いただき、今もさまざまな貴重なご意見もいただき、事務局にしっかりまとめていただいて、審議会の方に委ねるわけですが、本委員会が出された意見、もちろん、市民や保護者の方から出された意見をしっかりと的確に捉えながら、より良い未来を見ながら、園児の未来を考えながら、お父さん、お母さんたちにとって育てやすい環境づくりの一助になるような再編になることを期待しています。我々も引き続きお手伝いできることは、お手伝いしていきたいと思っています。

(6) その他

【諏訪会長】 その他委員の皆さんから意見等はございますか。

(その他意見なし)

【諏訪会長】 意見なしということで、以上で会議事項を閉じます。議事進行にご協力いただきましてありがとうございます。進行を事務局へ戻します。

8 その他

【西沢子育て支援課長】 次第の8その他になりますが、今後の方向性で示させていただいたとおり、(仮称) おおまち保育・幼児教育みらいビジョンを策定するに当たり、策定委員会を立ち上げることになると思います。それについて、事務局より説明させていただきます。

【事務局】 先程ご説明申し上げましたとおり、保育所の再編に関しましては、今後、子ども・子育て審議会の答申を受け、決定されることとなりますが、再編に関わらず、今回、保護者や市民からいただいたご意見に関する課題を解決する必要性があり、将来的な市の保育、幼児教育について検討し、きちんとしたビジョンを示すことが重要と考えております。そこで、「(仮称) おおまち保育・幼児教育みらいビジョン」を策定する委員会を設置する予定であります。市としては、保育所等のあり方検討委員会の委員の皆様に参加いただくことを基本として、小学校のPTAや保育園や認定こども園の園長等、必要な団体を拡充したうえで、組織することを検討しております。

第1回策定委員会は、10月13日(火)14時からの予定
詳細は別途通知

9 閉会

【松山副会長】 長時間にわたり慎重審議、ご苦労さまでした。これからあとも新しい展開が予想されるわけですが、よろしく願いいたします。ありがとうございました。